

# 共生

奈良県生協連

2010年10月

NO.78

## 万葉のいぶきを求めて—(43)



吉野川・六田の渡し跡

かはづ      むつだ      かはやぎ  
河蝦鳴く   六田の川の   川楊の   ねもころ見れど   飽かぬ川かも  
かきのもとのひとまる  
柿本人麻呂

近鉄吉野線<sup>むだ</sup>六田駅を降りて、線路沿いに国道169号線を歩くとすぐに六田の渡し跡がありました。

万葉の頃の吉野川はこの辺りは水量も多く、広大な川幅を滔々と流れる様は雄大な眺めであったのでしょうか。「柳の渡し」は今日の大淀町北六田と南岸の吉野町六田を結んだ渡しで、本格的な渡しとして整備されたのは平安時代後期からともいわれ「桜の渡し」「椿の渡し」「桧の渡し」とともに大いに賑わったと伝えられています。

「カジカが鳴き、柳の美しいこと。よくよく見ても見飽きない美しい川だこと」

万葉の人々の憧れの的であった六田の流れも、今日では水量も少なく、川の兩岸に川原が広がり、渡しの面影はありません。一株の柳がそよぎ、天明六年(1786)建立の道標を兼ねた灯笼や、石造りの道標が往時の渡しの面影を止めていました。

奈良県生協連創立20周年おめでとうございます！



# はるみち 治道トマトとの出会い

同志社生活協同組合  
同志社女子大学 友和館食堂店長 関本明子

「せっかく、奈良にいるんだから、奈良の美味しい野菜をもっと食べたい！」

今から10年前、奈良女子大学生協の学生委員長の“さなえもん”が、奈良女の竹内専務と屋根店長に詰め寄っている姿が懐かしく思い出されます。

小娘たちの“わがまま”を真摯に受け止め、竹内専務と屋根店長が、なんとかして奈良女の子どもたちにおいしい奈良産の野菜を食べさせたいと、奈良県生協連総会後の懇親会で働きかけ行動してくれ、当時、ならコープで取り扱いをされていた“治道トマト”の生産地へならコープ理事のお母さんの招待もあり、私たち学生も参加させていただくことが実現しました。それが私と“治道トマト”との出会いです。こんなに長いお付き合いになるうとは、全く予想もしていませんでした。

私、関本 明子は、奈良女子大学を卒業後、同志社生活協同組合に入協し、購買部、書籍部を経て、現在同志社女子大学の友和館食堂で店長をさせていただいております。今年の夏も「トマト豆腐とか、トマトのかつおかけ、すっごくおいしいよ！」と同志社女子大の学生たちの嬉しそうなお声が食堂のあちらこちらで聞かれ、パートさんも「このトマト完熟だからほんとにおいしいけど、期間限定やし、しっかり食べてね！」と子どもたちと話している姿をほほえましく見えています。そんなとき私は内心で「治道トマトが食べられるのは私のおかげなんだから、感謝して食べてね」と、学生に言いたい気持ちを抑えながら、どんどん売れるトマトメニューを見ながら、トマトを切っては盛り、切っては盛りと追われる毎日を過ごしています。

実を言うと10年前、ならコープ理事のお母さん達の好意によりならコープ主催の「治道トマトの生産地見学」へ参加した時のことです。私はさなえもんに付添って“仕方なく”企画に参加する予定でした。なぜなら“私は大のトマト嫌い”で、トマト大好きで言い出しっぺの“さなえもん”は「バイトがあるから・・・」と、専務と店長と私を置いてそそくさと出かけて行き、本当にそのときは、・・・とても腹が立ちました。(今ではいい思い出ですが・・・)

治道では生産者の方、組合員のお母様方や小学生の子

どもたちに混ざり、ちょっと大きな大学生の子どもの私と、(今でも)奈良のお父さん、お母さんである専務と屋根さんが付き添って、暑い暑いビニールハウスの中でトマトを収穫しました。

「(収穫したばかりの)トマト食べてみて！」と、生産者のお母さんに笑顔で勧められた時は「ただでさえ嫌いなトマトを、こんな生温かい、いや熱い状態のトマトを食べるなんてありえない！！」とはもちろん言えず、やけっぱちで食べてみたら、これはびっくり！「甘くて、おいしい・・・」ではありませんか。小学校時代、トマトが嫌いはずっと給食を残して居残りをさせられていたのは、私が悪いわけではなくトマトが偽物(完熟じゃない)だったからだ、と、大学生になって初めて分かり、今までトマトが嫌いだった私の人生損した気分になりました。

トマト収穫後にトマト料理教室が企画されていたのも憂鬱に思っていたのですが、「生産者の方にトマト料理を教えてもらって一緒に食べよう！」のイベントも、組合員のお母様たちと子どもたちと楽しく過ごせ、何よりトマトメニューがおいしいことで、ほんと幸せな時間を過ごさせてもらったと思います。

治道トマト企画の最後に「今日参加していただいた方には、奈良女子大学生協の学生さんも来ていただいております」ということで、コメントを求められ、びっくりしている私は「今日来れなかった奈良女子大学の学生にも、このおいしいトマトを食べさせたいです。」と期待通りのコメントを上手に言えたことを受けとめて頂き、京都滋賀奈良の大学生協にも治道トマトが広がり、今も同志社生協でも、治道トマトを提供しています。このように多くの学生に喜ばれているのは、奈良県生協連があったからだと思います。大学生の時は自覚できませんでしたが、実際自分が生協で働く中で大きな意味と役割があることだということが分かってきました。

このように、産地と学生を繋いで頂いた奈良県生活協同組合連合会に感謝しております、ありがとうございます。

最後に、今後も大学生を応援してくれる奈良県生活協同組合連合会様の発展を願っています。

## もくじ

治道トマトとの出会い.....	1
第22回近畿地区生協・行政合同会議.....	2
県内の消費者行政 ～活性化計画の進捗～.....	3
環境のページ(生物多様性条約COP10).....	4
食の安全シリーズ No.3.....	5

奈良の食文化研究会のご紹介.....	6
ピース in ヒロシマ・ナガサキ報告.....	7
労済生協におじゃましました.....	8
広がる協同・くらしの輪.....	9
つながる連帯・友好の輪.....	10

# 「第22回近畿地区生協・行政合同会議」が開催されました

～安心して暮らせる社会づくりのために…生協と行政の連携～

近畿地区府県連協議会主催で「第22回近畿地区生協・行政合同会議」が9月1日に奈良ロイヤルホテルで開催されました。消費者庁の羽藤秀雄審議官をはじめ、厚生労働省近畿厚生局の横尾年裕健康福祉部長、奈良県くらし創造部の宮谷太部長など近畿地区の各府県行政から多数のご参加をいただき、各府県生協連やKC'sからのご参加含め47名の方が参加されました。

会議は、近畿地区生協府県連協議会代表の浅田克己兵庫県生協連会長理事から開会の挨拶の後、開催地である奈良県くらし創造部の宮谷太部長より歓迎のご挨拶がされました。



浅田克己 協議会代表



奈良県くらし創造部 宮谷太部長

## ■ 生協検査における改善課題について

厚生労働省近畿厚生局の横尾年裕健康福祉部長の報告をかねたご挨拶では、厚生局が実施した生協検査(厚生局が直接管轄する生協に対する検査)で把握された問題点(①理事会の運営・進行②規則等の整備③各登録手続き④利用割戻しの対象者について)などもご指摘いただきました。

続いて、日本生協連渉外広報本部の伊藤治郎渉外部長から、全国の生協の取り組みについて報告がありました。



横尾年裕 健康福祉部長

## ■ 消費者庁発足以降の消費者行政課題について



羽藤秀雄 審議官

消費者庁の羽藤秀雄審議官から、「消費者庁発足以降の消費者行政課題について」をテーマにご講演いただきました。ちょうど消費者庁が発足以して一周年(2009年9月1日消費者庁発足)という節目の日でもあり、消費者庁の使命・機能である「消費者行政の一元化」、「消費者行政の司令塔・エンジン役」の到達点や消費者庁および消費者行政の課題にも触れていただきながら、この一年間の取り組みについてご報告いただきました。

報告を受けての質疑応答では、「地方消費者行政の強化」について各府県行政の方々との率直な意見交換が行われました。

## ■ 「くらしの安全・安心に向けた取り組み…行政、生協、NPOとの連携」(事例報告)

「『新しい消費者行政を実現する連絡会』の取り組み」(大阪府生協連 安本正男専務理事)、「滋賀県食の安全・安心推進条例制定に関する報告」(滋賀県県民文化生活部県民生活課 大橋弘明参事)、「奈良県の防災対策と生協との連携」(奈良県総務部知事公室防災統括室 川内輝明室長補佐)、「消費者支援機構関西の取り組みと行政との連携」(消費者支援機構関西 片山登志子副理事長)について、それぞれご報告いただき意見交換が行われました。



# どうなってる？ 県内の消費者行政

## ～活性化計画の進捗～

「消費者の権利の尊重、自立の支援」を基本理念に謳った消費者基本法が制定され（2004年）、消費者庁が発足し（2009年）、消費者が主役となる社会「消費者市民社会」づくりに動き出しています。消費生活の現場である地方消費者行政充実のために地方消費者行政活性化基金が創設され（2008年）、県を含め市町村では2009年よりその具体化が求められています。

地方自治体での充実強化のポイントは ☆消費生活相談体制の充実 ☆法執行の強化 ☆相談員の確保と資質の向上 ☆消費者教育・啓発活動の推進 ☆消費者団体との連携などが挙げられます。

「奈良の消費者行政を考える会」では地方消費者行政活性化計画が策定される時期（2009年3月）と1年が経過した本年4月に市町村にアンケート調査をしました。以下に両調査のまとめを掲載します。

### 「奈良県における市町村消費者行政の現状と活性化計画について調査まとめ」2009年調査 (回収率60%)

- ☆財政難を反映しているのか、人員体制が不十分である。担当職員が他業務も兼務しており、消費者行政の占める割合が1割程度という回答が多かった。その分、相談窓口が設置されている所では消費生活相談員に過重な負担を強いられていることが見てとれる。
- ☆市町村による格差が大きい。自治体の地形形状、人口や予算規模上の違いが大きく、くらしの安全・安心という生命・財産に関わる分野でどこに居住するかによって大きな違いがある。
- ☆活性化計画立案は調査当時では18市町村であったが、2009年6月現在、未計画は6市町村になっている。活性化基金が相談員の人件費に使えないことに不満があるとしても、啓発や研修事業に活用して欲しい。
- ☆啓発事業が不十分で、市民団体との連携も少ない。住民が賢い消費者になることが重要で、そのためにも市民を巻き込んだ取り組みが必要である。

### 「2009年度地方消費者行政活性化計画進捗調査」まとめ2010年調査 (回収率53.8%)

- ☆活性化基金3年（1年延長で2012年まで）の中でも積極的に活用している所、計画無策定の所、消費者行政予算自体が削減された所とわかれ、財政状況がうかがえる。
- ☆相談窓口の日数・時間が17市町村で増加しているが、新設や職員対応のところでは窓口対応の研修が必要と思われる。
- ☆PIO-NET<sup>(\*)</sup>への接続は5市町増えて9市町となった。新消費者政策では情報の一元化を進めており、PIO-NETへの情報集約のため、全市での導入が望まれる。
- ☆相談窓口の広域連携は宇陀市・曾爾村・御杖村で進められ、両村で窓口が開設された。各自治体で窓口を開設することも重要だが、広域連携でいつでも、高度な問題でも相談できる体制を組むことも重要と思われる。

両調査から見えることは、市民の関心度、議会や首長、行政の問題意識に関係していると思われる。消費者被害の未然防止、被害救済のためには、市民の関心を高め、消費者団体の育成や連携を計ることも重要ですが、何よりも行政には「県民・市民のための消費者行政」の充実を求めていきたいと思えます。

（詳細は「奈良の消費者行政を考える会」事務局 TEL:0742-34-3535（奈良生協連）にお問い合わせください）

(\*)PIO-NETとは、消費生活センターと国民生活センターをネットワークで結び苦情相談情報の収集を行っているオンラインシステム

# 名古屋で「生物多様性条約」第10回締約国会議(COP10)開催

奈良県生協連の各生協では生物多様性条約締約国会議に向け様々な企画が実施されましたのでご紹介します。

**カルタヘナ議定書 第5回締約会議 COP-MOP5 (10月11日～15日)**  
**生物多様性条約 第10回締約会議 COP10 (10月18日～29日)**

## 《生活クラブ生協》

COP10開催100日前

に大阪で行われたシンポジウムに参加。生活クラブ生協の機関誌「yummy<sup>3</sup>通信」で組合員に広報。採取するばかりの人間の行動を戒め、市民が関心を持つことを呼びかけました。遺伝子組換え食品での健康被害が出た場合の責任や修復(救済)にたいしてのルール作りが不十分であり、日本のリーダーシップを求めています。

## 《コープ自然派奈良》

生物多様性実行委員会を理事と組合員で発足。親子参加の企画「いただきますワンダーランド～枝豆王子がやってきた!」を実施。(8月24日 奈良県文化会館)



歌とクイズで伝えます

ミュージシャンで枝豆研究家の「枝豆王子」=児島啓介さんが歌とクイズで「食べることは命をいただくこと」を伝えました。だだちゃ豆をみんなで試食。生物多様性とCOP10、\*カルタヘナ議定書締約国会議(MOP5)について説明し、関心を持とうと呼びかけました。9月19日には大阪で「あなたに伝えたい生物多様性」の勉強会が開催されました。



おいしい!枝豆を試食中

メモ\*カルタヘナ議定書: バイオテクノロジーで改変された生物による生物多様性の保全および持続可能な利用への影響を防止するための国際的な枠組み。

## 《ならコープ》

7月12日「生物のいのち、つないでいこう」と近畿大の櫻井保之

教授が講演。里山の大切さを伝えました。また、7月17日の創立記念学習会で「生き物から地球環境を考える 動物園から学べることは何か」と題して元天王寺動物園園長の宮下実さんが講演。8月1日近畿大学のビオトープ(生物生息空間)で親子参加の里山自然観察会を開催。その他、菜の花プロジェクトや吉野の森を守る取り組みなど地域で様々な活動を展開中。



(櫻井教授の多様性のワークショップから)

葉っぱってどんな形だった? 大根のひげ根はどう生えている?

## 人間は地球生態系の一員

人間は、生物を食料、医療、科学などに幅広く利用して来ました。近年、野生生物の種の絶滅が早いスピードで進行し、その原因である生息域の悪化や生態系の破壊がさらに深刻になってきています。国際条約(ワシントン条約、ラムサール条約など)はありましたが、包括的に保全し生物資源の持続可能な利用を行うための国際的な枠組みを設ける必要性から、「生物多様性条約」が、気候変動枠組条約とともに1992年国連で採択。2010年6月現在192カ国およびEUが締結(米国は未締結)。

生物多様性の損失の取り返しのつかない転換点が近づいていると言われており、実効性ある「新戦略計画」の国際合意が必要です。しかし、生物遺伝資源の利益をどう配分するか、途上国への技術移転などで、途上国と先進国とが対立しています。

## 今年は生物多様性年(2010年目標年)

2002年(COP6)で「締約国は2010年までに地球上全ての生物の便益のために生物多様性の現在の損失速度を顕著に減少させる」という目標(2010年目標)を採択。今年、これまでの取り組みの評価と今後の「新戦略計画」の枠組みを決める節目の年。日本はホスト国として「ポスト2010年目標」(名古屋ターゲット)の採択に向けリーダーシップの発揮が求められています。

## 私たち市民がしなければならないこと

自然の恵みに感謝!身近な自然も大切に!環境にやさしい生活を!そして、なによりも 関心を持つこと 議長国である「日本」が国際会議で決められる新しい目標を達成できるかどうかは、国をあげての保全型社会への転換への機運と私たちひとりひとりの生活の仕方や関心の持ち方にかかっています。

## 他府県の食の安全推進条例を調べる

当連合会では食品の安全行政をさらに充実させる視点から、「奈良の食の安全推進条例」の制定を要望して来ました。今年度、会員の地域生協の役職員を対象に「食の安全懇談会」を設定し学習を重ねています。奈良県の食品の安全確保の取り組みを県の担当職員から、京都府・大阪府・滋賀県の条例制定に関わった各府県連から食の安全推進条例の制定の経緯や内容をご報告いただきました。制定に至った背景や経過は異なりますが、今回は近畿圏の他府県の条例についてご紹介いたします。

### 京都府食の安心・安全推進条例

(2005年12月27日公布2006年4月1日施行)

- 条例制定のいきさつ** 2003年「食の安全・安心協議会」の設置等を要望。2004年2月 高病原性鳥インフルエンザ府内で発生。県や国の対応の課題が見えた。その後「京都府食の安心・安全基本方針」が出され、協議会があれば違う対応になっていた。京都府食品衛生監視指導計画案に食品安全条例の必要性を要望。
- 求めた理由** 行政は法令にもとづいて動く組織であり、他部局との連携はなかなか進まないのが実情。生産から流通、消費者、廃棄までの全工程管理を視野に入れた法令・仕組み・態勢の整備が必要。消費者の「不安・不信」には対応できていない。  
「京都府食の安心・安全プロジェクト」を設置。「京都府食の安心・安全政策検討会」に参加。条例制定の消費者側からの声。条例制定を知事が表明。
- 条例の特徴** 「理念」だけでなく、「推進のための具体的な仕組み」を持つ。年次計画と消費者参加、事業者・消費者との交流、「規制」条項を入れ地産地消や食育は捨象。

### 大阪府食の安全安心推進条例

(2007年3月16日公布2007年4月1日施行)

(2008年4月1日一部改正施行)

- 条例制定のいきさつ** 2002年太田知事(当時)が「食の安全安心の推進に関わる基本方針」を発表。2003年食の安全安心府民会議設置。府民会議の消費者委員会の5つの消費者団体が条例制定を求め大阪コンシューマーズネットワークを結成。府民会議・条例制定検討委員会、食品関連事業者・生産者などに意見表明。
- 求めた理由** より実効性の高い恒常的な施策としたい。過去の事故を教訓に大消費地にふさわしい未然防止・拡大防止の施策、国の新しい考え方を生かす施策を実施したい。消費者、生産者・事業者、行政が一層協力して施策を実施したい。
- 条例の特徴** 府民への情報提供、府民の申出・施策の提案、食の安全情報センターと情報評価委員会、緊急時の情報提供、自主回収報告制度。  
府民として、参画して作ったからには施策へ積極的に協力することが大切。

### 滋賀県食の安全・安心推進条例

(2009年12月25日公布2009年12月25日施行 一部2010年10月1日)

- 条例制定のいきさつ** 2007年4月に7団体2個人の参加で「食の安全・安心条例化を求める滋賀県民会議」をスタート。条例要項案を12月に作成。  
2008年には県民向け条例要項案解説パンフレット作成、知事への手紙、県担当部局との懇談、県議会全会派への要請を実施。7月県民会議が県民集会を開催。8月県民会議から副知事に要望。9月県議会にて条例制定への前向きな知事答弁。行政が関係各課の調整。食の安全対策委員会を経て滋賀県HPに条例要項案の意見募集。2009年12月県議会で全会一致で採択。
- 求めた理由** 重大な問題が起こる前に、規制だけでなく、消費者の役割を明記し、生産者・事業者・消費者そして行政の連携により影響力のあるアクションプログラムの基盤となる条例を求めた。

●**条例の特徴** 地域の実情に応じ特色を生かす。環境こだわり農業・滋賀版HACCPの推進。安定供給と地産地消の「近い食推進条例」。危機管理に対する報告義務やリスクコミュニケーション。県民の申し出制度・審議会を位置づけた。輸入業の届出、自主回収、勧告および公表については、2010年10月1日から施行。



県消費生活安全課姫野課長補佐から



京都府生協連坂本事務局長から

## 奈良の食文化研究会のご紹介と、「おいしい体験」へのお誘い

NPO法人 奈良の食文化研究会 理事長 瀧川 潔

「遷都1300年」で賑わう奈良は、食文化においても、日本の土台となる深い伝統と歴史を持っています。私は、ならコープの時代から、この大切さを意識して1996年の会発足に参加、2001年の法人化後は副理事長として、先の理事長が健康を害され、一昨年のならコープ退任後は理事長として、この会の活動に携わってきました。

この会の目的は、奈良県下の伝統的な郷土料理を発掘・研究し、それらを多くの人々に伝え広めることで、奈良の食文化の歴史及び伝統の継承と普及を図るとともに、郷土料理を活かした現代人にとって正しい食生活のあり方を創造するための研究を進め、その成果を広く人々に伝えることで、地域社会の発展と人々の健康の増進に寄与する、ということです。事業としては、奈良新聞のコラムに月1回の発掘・研究成果を交代で執筆すること、これを10周年記念として出版したこと（現在も「遷都1300年と奈良の食文化の源流」のテーマで第3週水曜日に掲載中）、年数回の郷土料理講習・食事会、おいしい食の食べ歩き企画、食のイベント「出会い大和の味フェア」の開催、他団体での講演、等の他、昨年からは「奈良の森を守るジビエ鹿肉料理の普及とルート開発事業」に取り組み、昨年は「なら・未来創造基金」、今年「県地域貢献活動助成事業」および国の「山村再生プラン」助成事業からの助成を受けています。

森での鹿の異常繁殖は全国的に広がっていますが、森林県奈良では「奈良公園の鹿の保護」の伝統もあり、バランスを保つための年8千頭の駆除が必要にもかかわらず進まず、森は荒れ、環境や特に林業には大きな打撃を与えています。県の鳥「こまどり」も、好んで営巣する「スズタケ」が食べつくされ絶滅の危機にあるとのこと。

みなさんも、当会の試食会や食事会に参加いただき、「おいしい体験」の中で、奈良の食と環境・文化のことを考えてみませんか。ぜひご参加をお待ちしています。

奈良の食文化研究会 連絡先 0742-33-3939



シカ肉のたたき(協同組合デーのつどいにて)

暑い夏 熱い願い 篤い思い

# 高まる核兵器廃絶の願い

ピース in ヒロシマ・ナガサキ報告

被爆65年を迎える今年の8月6日の広島平和記念式典、9日の長崎平和祈念式典に向けて核兵器廃絶の願いは大きく高まりました。NPT再検討会議での成果もあり、海外からの式典参加者も増え、特に潘基文（パン・ギムン）国連事務総長、ルースアメリカ駐日大使の広島慰霊祭への参加は画期的なことでした。両被爆地とも、原爆資料館見学、被爆遺蹟めぐり、被爆体験を聞く会、原爆病院訪問など、さまざまな催しが行われ、外国人も含めて多くの参加がありました。

被爆・戦争体験者の高齢化でお話を直接うかがえる時間は少なくなっています。共感すること、語りつぐことの重要性を認識する年になりました。

## ピース in ヒロシマ虹の広場

広島グリーンアリーナに、全国から57生協1000人が参加しました。

秋葉市長の歓迎挨拶、NPT派遣者による報告、被爆の証言では元日本生協連会長竹本成徳さんの体験談「最後のトマト」のお話がありました。ならコープから15人が参加、原爆養護ホーム舟入むつみ園を訪問しました。長年の募金に対する感謝状を頂きました。



入居者と「ハイ パチリ」

パン ギムン

## 潘基文 国連事務総長講演

平和記念式典終了後、潘基文国連事務総長の特別講演が行われました。朝鮮戦争の思い出から「私は一生を平和のために捧げてきた」、核軍縮に向けた流れに触れて、「私たちはこの勢いを保たなければならない」と力強く語られました。



潘基文 国連事務総長

## ピース in ナガサキ虹の広場

長崎市民会館には32生協700人が参加しました。ジャーナリストの高瀬毅さんは『ナガサキ 消えたもう一つの「原爆ドーム」』の講演の中で被爆後13年目に取り壊された浦上天主堂の経緯に触れ、語りつぐことの大切さ、戦跡や被爆遺構の大切さを話されました。田上市長の歓迎挨拶のあと、保育園児の龍踊り、中学生のコーラスの演奏など世代を超えて平和の思いを共有しました。



高瀬毅さん（日本生協連HPより）

## 平和憲法・九条を考える組合員活動交流会

ヒロシマ・ナガサキ虹の広場終了後、有志による交流会が別室で行われました。ナガサキ交流会では6生協30人の参加があり、それぞれから活動報告がされました。沖縄県が抱える基地問題の取り組み報告があり、本土との温度差もあるが、それぞれの地で自分達のやり方で平和活動に取り組もうという励ましをいただきました。今年は国民投票法が施行された年ですが、国民の関心は高くありません。「被爆者のメッセージは平和憲法の礎であり、世界の行く手を照らしている」という秋葉広島市長の平和宣言を思い起こし、将来に禍根を残さない判断できるよう取り組んでいこうと締めくくりました。



## ぼうさいカフェ in なら

日時：4月3日(土) 13:00～16:00  
場所：奈良市中部公民館 大ホール

### ナダレンジャーの防災科学実験ショー

(独)防災科学技術研究所 理学博士 納口恭明氏

皿回しや空気砲(バケツの底を抜いたもの)、ペットボトルに水と砂と虫ピン。身近なものでわかりやすく台風のしくみや液化現象の再現実験。発泡スチロールと長いビニール袋では雪崩を再現。固有振動はビルの高さごとにあり、揺れにより被害が異なることをわかりやすく模型で再現していただきました。ビルの倒壊実験では大人も子どもも、大変盛り上がりました。



プラスチック製ブロックでビル倒壊を再現。高いビルほどゆっくり大きく揺れ、倒壊。

あすかの小学校プラスチックバンド部の発表があり小学生と保護者の方が多く参加されました。

### 防災ゲーム「クロスロード」(ワークショップ)

神戸クロスロード研究会 クロスロード・ファシリテーター 濱尚美氏  
神戸市垂水消防署 吉本和弘氏

災害時の対応や備えについて「あなたならどうする?」といった設問にYes/Noカードで参加者が一斉に答えるカードゲーム。京都大学が開発したそうです。

奇数人数でグループ分け。必ずなぜそう答えたのか理由をグループ内で共有することが重要。正解はない。多数派になったら座布団1枚。一人になったら「金」座布団1枚をもらうことができる。最後に多い人が勝ち。それぞれの質問に、神戸などでは実際どうしたのか実例をあげて消防署で担当された吉本氏が答えられ、体験された方の回答は参考になりました。



防災について子どもと一緒に考えるよい材料を紹介していただきました。日頃から地域で話し合っておくことが大切だと実感しました。

あなたならどうする? ①避難所に飼い犬[ゴールデンレトリバー]を連れていく? ②避難所で大多数の人は水・食料を持っていない。自分が持ってきた家族3日分の非常用持ち出し袋を開ける? ③被災から数時間。3000人の避難場所。確保できた食料は2000人分。以降の見通しは全く立たず。2000人分を配る? ④避難所暮らしで風邪が流行。幼いわが子に風邪がうつらないように半壊の自宅に戻る? ⑤援助物資の古着が大量に余る。庁舎内に保管する場所はない。焼いてしまおうか? ⑥防災のために残り湯をためておく?

2011年

奈良県労働者共済生活協同組合(全労済奈良県本部)  
は設立・事業開始より50周年をむかえます!

next50  
なら・ひと・つながり

働く者の自主的な生活向上のため、諸団体を代表する22名の発起人の方々の呼びかけにより昭和36年(1961年)5月16日、奈良県労働者共済生活協同組合が創立されました。同年9月、設立認可を受け事業を開始し、「火災共済事業」と「生命共済事業」でスタートしたたすけあいの輪は、多くのみなさまのご尽力やご賛同を得ながら大きく広がりました。

これまでの50年をともに築き、支えてくださった関係諸団体のみなさま、そして組合員のみなさまに感謝するとともに、「みんなでたすけあい、豊かで安心できる社会づくり」の理念のもと、これからも奈良県における保障生協としての役割を果たし、組合員の信頼に応えながらたすけあいの心をつないでいきます。

50周年の感謝に向けて、組合員参加型イベントの開催や社会貢献活動などの検討をすすめています。また、たすけあいの輪のさらなる拡大のため、団体生命共済をはじめとする一律加入の推進や、自然災害共済加入推進により、もしもの時の組合員の生活再建を応援します。

奈良県労働者共済生活協同組合(全労済奈良県本部) TEL 0742-23-6031 <http://www.zenrosai.coop>

# 広がる協同・くらしの輪

## □第18回奈良県「協同組合デーのつどい」が開催されました！

### 協同組合間の交流が一層深まりました

7月16日「春日野荘」(奈良市)において奈良県協同組合連絡協議会が開催されました。その後協議会による第18回奈良県「協同組合デーのつどい」が開催され、県下協同組合関係者約90名が参加しました。今年度は「その日の疲れは、その日の内に解消！」をテーマに、ヘルスアドバイザーの小久保晴代さんから、日々の健康管理や疲労回復のためのストレッチ法についてご講演を頂きました。実際に体を動かしながら、大変説得力のある、日常的な疲労の解消方法について、楽しく学ぶことができました。「つどい」終了後、JAならけんのご協力のもと県内産品を使ったメニューによる懇親会を開催し協同組合間の交流を深めました。



疲労解消のストレッチ！

## □2010年度第1回生協・行政協議会開催

7月15日奈良県文化会館にて、県消費・生活安全課から山菅善宣課長、姫野隆昭課長補佐、福井千里主査、中山中主査にご出席いただき協議会を開催しました。同協議会は、例年春と秋に開催されています。今回は、奈良県の消費者行政新年度体制や食中毒予防等についてご報告いただき、また、奈良県生協連の今年度活動方針等について県連から報告し、意見交換が行われました。日本医療福祉生協連合会総会及び奈良県での医療生協設立の取り組みについても報告しました。



## □地鎮祭が行われ建設工事が始まりました。あすなら保育園

社会福祉法人協同福祉会で、来年度開設に向け準備を進めていた『あすなら保育園』の地鎮祭が、9月1日に、特別養護老人ホームあすなら苑（大和郡山市宮堂町）の隣接地で行われました。『子どもは社会の宝』として『子どもの全面的な成長と発達を保障し、生きる力を育む保育園』をめざし、早朝、延長保育、休日保育、地域支援（子育て支援、子育て相談）、365日運営を行い、産休明けからの長時間保育が行われます（一部は2012年度以降実施予定）。



# つながる連帯・友好の輪

## □関西地連 食品安全推進会議8月18日

「滋賀県食の安全・安心推進条例の概要について」（滋賀県健康福祉部 食の安全推進室 副参事 平井 喜与治氏）の報告を受け、関西地連管内の食品安全行政の動きや各会員の「条例制定後の行政の施策変化および生協の取り組み」の報告交流を行いました。



滋賀県食の安全推進室副参事 平井喜与治氏

## □生協理事長交流会9月16日

奈良県生協連の会員生協理事長交流会が、9月16日に猿沢荘で開催されました。当日は、奈良県に医療生協をつくる取り組みやあすなら保育園開設の取り組みが紹介されました。

また、各生協の取り組みの紹介の後なごやかに交流会が行われました。



奈良女子大学生協 大塚浩 理事長がごあいさつ

ご案内

## 「まず 知り合おう」～なんで生協やってんの？～

### 奈良県生協連 第1回地域生協組合員理事交流会

奈良県生協連創立20周年を記念して、地域の中ですすめられている多彩な組合員活動リーダーである組合員理事の活動交流会を開催いたします。

- ・日時 12月14日(火) 10:00～12:30
- ・会場 奈良県婦人会館

3つの地域生協が、それぞれのプロフィールや生協の取り組みを紹介した後、グループに分かれて理事の活動などについて交流します。

## 奈良県生協連 第2回理事会報告

7月15日 奈良県文化会館

### [主な審議事項]

- (1) 2010年度第21期通常総会まとめと課題に関する件
- (2) 奈良県生協連創立20周年記念事業に関する件(第3次)
- (3) 2010年度役員報酬に関する件
- (4) その他事項の件
  - ① 第2回食の安全懇談会の開催について
  - ② 「奈良県住生活基本計画課題検討委員会」の委員について
  - ③ 大学生協部会の開催について

# 県連日誌

## 7月

- 8日 近畿地区府県連協議会
- 9日 温暖化防止ネットワーク関西
- 15日 第1回 生協・行政協議会  
奈良県生協連 第2回理事会
- 16日 協同組合連絡協議会委員会  
第18回協同組合デーのつどい
- 21日 日本生協連全国県連責任者会議
- 22日 日本生協連消費生活審議委員会議
- 23日 関西地連府県連協議会
- 29日 県住生活基本計画課題検討委員会  
関西地連運営委員会
- 30日 奈良労済生協総代会

## 8月

- 8日 ピースアクション in ナガサキ、  
平和憲法・9条を考える全国生協  
組合員ネットワーク長崎交流会
- 10日 こむらいふ奈良  
「奈良の消費者行政を考える会」世話人会議
- 18日 関西地連食品安全推進会議
- 20日 関西地連大規模災害対策協議会
- 23日 第2回食の安全懇談会
- 25日 ピースアクションをすすめる会
- 27日 KC's「双方向コミュニケーション研究会」

## 9月

- 1日 第22回近畿地区生協・行政合同会議
- 9日 あすなら保育園をつくる会
- 13日 「奈良の消費者行政を考える会」世話人会議
- 15日 ならコープ医療生協学習会
- 16日 奈良県生協連 第3回理事会  
奈良県生協連会員生協理事長交流会
- 29日 KC's 研究会
- 30日 関西地連運営委員会

# お知らせ



## 『あすなら保育園をつくる会』 へのおさそい



社会福祉法人協同福祉会では、特別養護老人ホームあすなら苑(大和郡山市宮堂町)の隣接地に『あすなら保育園』を来年度開設に向けて準備を進めています。

協同福祉会とならコープでは「あすなら保育園をつくる会」を立上げ、支援者を募っています。建設募金に2000万円、おてんとさん市民共同発電所太陽光発電設置に220万円を目標に寄付を募っています。問い合わせはTEL:0743-58-4165 あすなら苑内 南まで

## 編集後記

○二十年を振り返ってみると五会員で始まった県連が一会員解散、五会員加盟と所帯が倍近く九会員になっています。ひまわり号列車企画やピースリレーなど今では懐かしい行事、防災や消費者課題などネットワークの広がり、1000人を超える参加の今は亡き筑紫哲也さんの講演会など広範囲の課題をこなしてきました。いつの時も変わらず会員生協と元気な組合員が県連活動を支えてくれました。変わったのは写真がシートからデータで残っていることですね。(通)

○入社3年目の長男は仕事場を見て、いろいろ悩み考えているようです。会社のえらい人や政治家に聞きたいと。「仕事は楽しいですか?あなたにとって仕事とは何ですか?人生の目的は何ですか?」私は次男が不登校になった時期、毎日毎日深刻に考えたことがあります。「何で学校に行くのだろう?人は何で生きていくのだろうか?」と。正解はありません。人生ってまんざらでもないよと若者にエールを送れる社会でありたい。(順)

○各地の海で取れる魚の種類が変わったり、漁獲量が増減する異常現象が起こっているらしい。今年初めてきゅうりとミニトマトを植えてみました。毎日何個できて、何個赤くなったら水をやりながら眺めています。そのうちこれも正月の風景となるのでしょうか。(和)